

27回を迎える高専プロコンの取り組みについて

プログラミングコンテスト委員会
(弓削商船高等専門学校 ○長尾和彦)

1. まえがき

第27回全国高専プログラミングコンテスト(以下「プロコン」)が10月8日～9日、三重県伊勢市で開催される。プロコンは高専の教員が手作りで始めたものであり、ほぼ全高専が参加する高専全体のコンテストとして定着している。このコンテストは、学生の創造性教育の実践として高い評価を得ている。

これまでのプロコンの内容と運営方法を紹介し、4半世紀にわたり継続したプロコンの教育的意義と今後の取り組みについて解説する。

2. プロコンの歴史

プロコンは、高専における情報処理教育活動から生まれた。1989年5月の情報処理教育協議会(後の専情委)の常任委員会において、全国の高専学生を対象としたプログラミングコンテストの開催という意見が採択された。この会を母体として本コンテストの実行委員会が編成された。プロコンは情報処理技術の高揚や教員・学生の交流の機会拡大などの狙いもあったが、高専が持つ若くて力強いエネルギーや発想の柔軟性を世の中に紹介したいという強い思いがあった。

図1に高専プロコンの応募チーム数および主な出来事を示す。高専プロコンは文部科学省(文部省)の全国生涯学習フェスティバル(まなびピア)の参加企画として始まり、「まなびピア」実行委員会の共催を受け、原則として「まなびピア」開催県で開催されてきた。4回大会から最優秀賞チームに文部科学大臣賞が授与されている。「まなびピア」事業の見直し後、第22回大会から高専独自の大会として開催され、文部科学大臣賞も継続している。当初、課題部門と自由部門の2部門であったが、第5回大会から競技部門が加わり3部体制となり、応募数も増加した。第13回大会から課題・自由部門の本選参加枠が10チームから20チームに拡大され、本選の規模も大きくなった。第15回大会から海外チームのオープン参加が始まり、毎年海外チームが参加している。

2008年7月に高専プロコンおよび高専の情報処理教育を支援する目的で特定非営利活動法人高専プロコン交流育成協会(Nourishment Association for Programming Contest KOSEN: NAPROCK)が設立され高専プロコンを共催している。オープン参加から始まった高専プロコンの国際企画は、NAPROCK国際プログラミングコンテスト(NAPROCK)

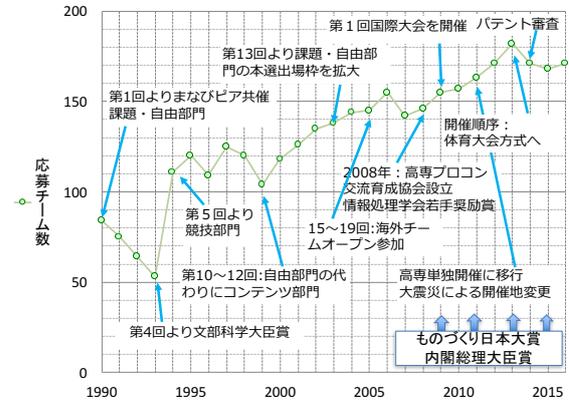


図1 高専プロコンの発展

表1 高専プロコンの開催地と主管校
(28, 29回は予定)

回	開催年	本選開催地	主管校	予選会場
1	1990	京都市		フォーラム8
2	1991	大分市		サンプラザ
3	1992	仙台市		東京文化会館
4	1993	名古屋市	豊田	都立高専
5	1994	富山市	富山商船	東京高専
6	1995	函館市	函館	東京高専
7	1996	北九州市	北九州	東京高専
8	1997	長岡市	長岡	東京高専
9	1998	明石市	明石	東京高専
10	1999	呉市	呉	都立高専
11	2000	津市	鈴鹿	都立高専
12	2001	鶴岡市	鶴岡	都立航空高専
13	2002	金沢市	石川	都立航空高専
14	2003	八王子市	東京	育英高専
15	2004	新居浜市	新居浜	都立高専
16	2005	米子市	米子	都立高専
17	2006	ひたちなか市	茨城	都立高専(品川)
18	2007	津山市	津山	都立高専(品川)
19	2008	いわき市	福島	サレジオ高専
20	2009	木更津市	木更津	田町CIC
21	2010	高知市	高知	サレジオ高専
22	2011	舞鶴市	一関/舞鶴	舞鶴市総合文化会館
23	2012	大牟田市	有明	都立高専(品川)
24	2013	旭川市	旭川	都立高専(品川)
25	2014	一関市	一関	関東ITソフトウェア健康会館・市ヶ谷
26	2015	長野市	長野	都立高専(品川)
27	2016	伊勢市	鳥羽商船	都立高専(品川)
28	2017	周南市	大島商船	
29	2018	徳島市	阿南	

【連絡先】〒794-2593 愛媛県越智郡上島町弓削下弓削1000 弓削商船高等専門学校 情報工学科
長尾和彦 TEL:0897-77-4663 FAX:0897-77-4691 e-mail: nagao@info.yuge.ac.jp

【キーワード】プログラミングコンテスト, 創造性教育, PBL, 連合会

